

朝活かみいち、第2回の報告

12月4日木曜、朝7時から8時まで、上市在住の写真家内山康弘さんをお招きして、写真を通して上市を語ると題して「剣岳と私」についてお話をいただきました。参加者は富山から3人、立山から1人を含めて10人でした。

朝のモーニングサービスを食しながら自己紹介に続いてすぐに本題に入りました。まずは最初に大迫力のすばらしい剣岳の写真で一同は大いに驚き、内山氏のなぜ剣岳を写しているのかから聞き入りました。その後いくつかの衝撃的な写真を鑑賞し、写真の撮影の心意気や、そこから滲み出てくる人生観に本当に一同大いに心が動いたものと思っております。多くの若い方々には、写真家内山氏のメッセージが託された、といっても過言ではありません。

前置きはこのくらいにして、早速当時の様相を記録風に述べます。多少記憶違いがあるかもしれませんがご容赦ください。また、＜1＞から＜3＞は必ず目を通していただければと思います。

＜1＞写真で大いにびっくり、オーツの連続

一つ一つの写真をお見せしたいのですがそうもいきませんので、特徴的なことを列挙します。

(1) 剣岳の南北尾根なのでこぼこは御釈迦さんの横顔そのもの。大窓が首部分、頂上が鼻部分、小窓が口部分、となっています。言われてみれば確かにそう見えます。なお、剣岳の深いキレット(尾根伝いにある深いV字形のくびれ)は窓と呼ばれ、頂上から北に向かって、最初のキレットが三の窓、二番目が小窓、三番目が大窓と呼ばれています。

(2) 小窓から立ち上がる太陽が上空に光を噴出しているかのような写真に、一同さらにびっくり。噴出しの明るい部分はお釈迦様の立像そのものだったのです。これはねらって撮れるものではないとのことでした。

(3) 詩吟もやっておられる内山さん。剣岳と自分という感じのロマンチックな漢詩をもつくっておられ、披露されました。

＜2＞写真撮影はコミュニケーション、ウーーン

(1) ありのままを撮る

写真を撮りに行くとき、何を撮るのか決めていく方が多いため、雨や風の日は避けて晴天を狙うことが一般的です。ところが内山さんは違ってました。そこに出かけ、雨や風の日にはそれをも含めて対話するという。要は、いろんなものと出会い、コミュニケーションをして、撮影していくとのこと。山でも、山のみを写すことばかりではなく、周辺の動植物なども含めての撮影です。例示された写真には、呉羽山の佐伯有頼像を左側に、右側に剣といった構図も、何かを物

語っているように見え、撮影者とのコミュニケーションはいつしか鑑賞者も参加していました。

(2) 写す対象は絞ること。あれもこれもでは一番の主張が散漫になるということのようです。

＜3＞滲み出る人生観、シーーン

剣岳のような人になりなさいと母親に言われたことで剣岳を仰ぎ見る内山氏。毎日の撮影が剣岳のさまざまな様相を引き出しておられました。我らは、剣岳がさまざまな表情を持っていることにまたびっくりでした。剣岳とむきあって得られたことを次のようにいっておられました。

- ・ポジティブに考えるようになる。
- ・感動することにより気持ちが若返る。
- ・明るく楽しく過ごすことが出来る。

＜4＞経営哲学

(1) 経営哲学にも語っておられた。内山さんの会社のスローガンは「響働」であり、スタンスは「変わろう、変えよう」、「今から、ここから、自分から」という。この後、会社の名前を盛り込んだ短文が紹介されました。「成長(株)はここにあり。会社の内は宝の山。力合わせて精一杯、加工に励み改善し、みんなで掴もう幸せを！」

(2) 人生訓 4つの葉を語っておられました。4をあわせるから幸せ。それは、健康、(経済的)安定、生きがい、(家庭の)円満、とのこと。

(3) 改善活動スローガン「STAR運動」

STARTは4つのこと「S:see T:think A:act R:refresh」からなる。そして、「より楽に、より良いもの、より安く、より早く」をモットーの旨をいっておられた。

(4) そのほか

見込みの勝って読みはだめという意味で、「(わかった)つもり、(やった)つもり」はだめといっておられた。一例として、チラシやパンフの全戸配布すると全員が見てると思ったら大間違い。見てるはずではなく、PRにはしっかりと考えて行動すべしということを書いておられました。

＜5＞おわりに

末筆になりましたが、進行役の内山さん、参加された皆さん、ありがとうございました。

Togashi
記

